

始



37

298

明用治考
整形

隆鼻法

附

鼻病治療法



日本藥學協會出版

日本藥學協會

大正
3. 7. 7
内交



下田良敬序
日本藥學協會
主幹 鴨田脩治著

整形
隆
鼻
法

附鼻病療法

全

發行所

日本藥學協會

五大
F.T.S
交内

簡易隆鼻法

をソイフラバは圖下
面側の鼻隆しせ射注



鼻の隆い低は既に乳兒の時から知れて居るのである。低いと認めたらば指頭にて
摘み出す様にするのである、絶えず
斯くするときは十二三の頃までには
充分に發育して普通より以上の隆鼻
となる。

鼻や耳の組織は小供でなくとも常に
根氣よく摘むか又は引張るときは隆
くも長くもなるもので、西洋の或る
人は自己の鼻の形状を十五度も變化させたと云ふて居り升。

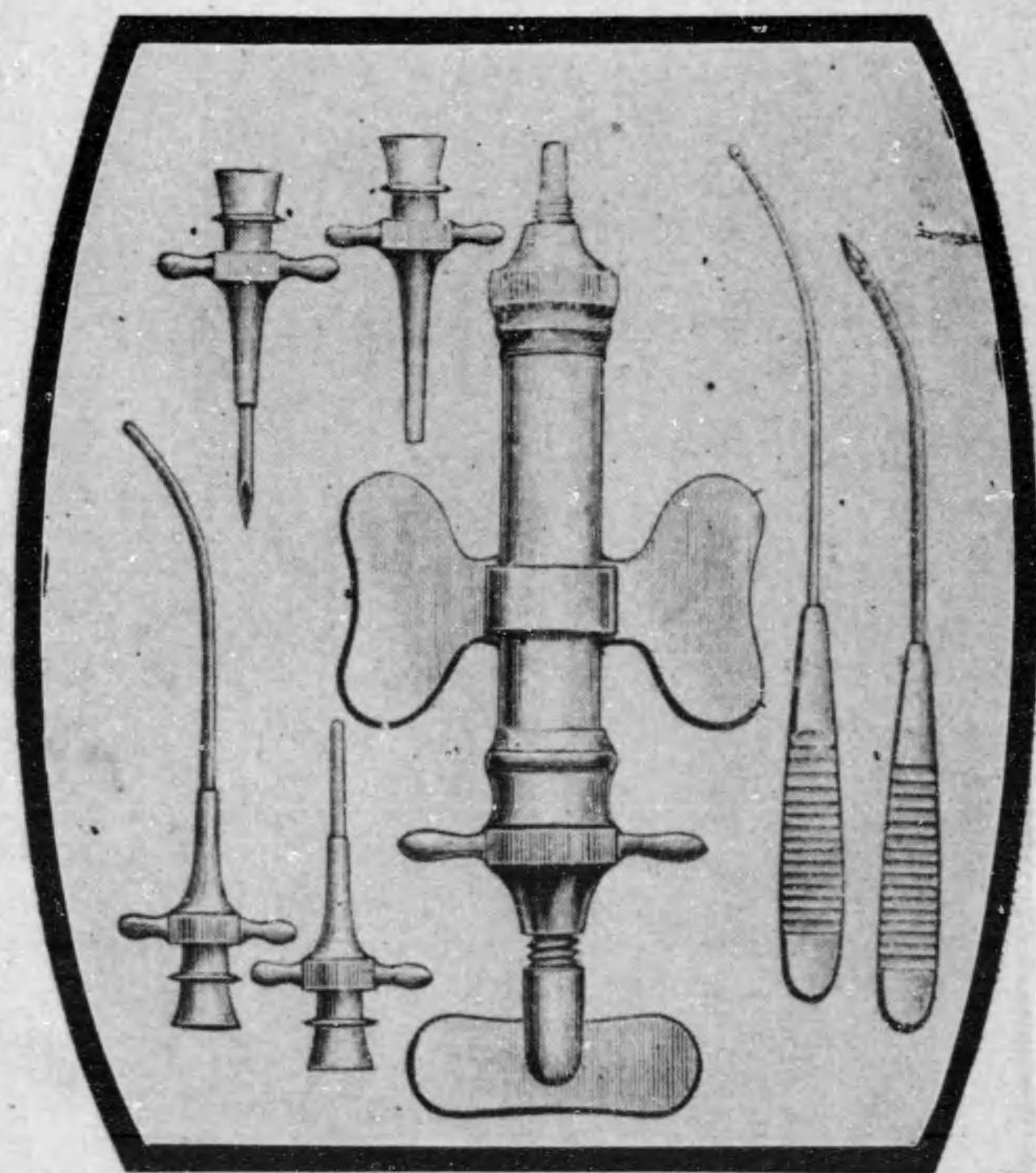
鼻基礎骨の圖



(8) (7) (6) (5) (4) (3) (2) (1)

- (1) 上顎骨の前頭突起
- (2) 鼻骨
- (3) 前頭骨
- (4) 鼻翼軟骨
- (5) 鼻翼の纖維性基質
- (6) 鼻中隔の軟骨壁
- (7) 三角軟骨
- (8) 眼窩

ハフライン注射器の圖



序
 友人游水鴨田脩治君は達識の士である、夙に時
 代の趨勢を察して日本薬学協会といふを起し
 て、著作に製薬に、主として醫事衛生の爲めに
 盡さるゝこと茲に三十年、精力の非凡なること
 驚くべきである、醫學生の爲に醫學通信講義又
 藥學生の爲に藥學講義録を出したのも君が元祖
 であつて、衛生新聞の發行も君を以て嚆矢とす
 る、肺結核の療法にケレナソートを唯一の頼み

とした時代に、君は早くも營養療法や空氣療法
 の根本療法たることを唱道したのも、吾輩友人
 間に於て竊かに推稱する所である。
 一國の文野は最も衛生状態の如何に由つてト
 すべきである、苟も文明國の伍班に列しながら
 今に於て惡疫の流行を絶たぬは我日本ばかりで
 ある、君は此點に就ても從來種々の著述を公に
 して、衛生思想の普及を促すに努められた、近
 年又頻りに通俗衛生書、家庭治療書の類を數多

出版し、此の方面に於て一流獨特の色彩を發揮
 して居られる、試に其一二を擧げて見れば、病
 氣の種類に由つては醫療を受けるを恥ぢて思は
 ず手遅れになり勝ちのものがある、此種の患者
 は社會の各層を通じて澤山にある、是に於てか
 通俗衛生顧問及び通俗秘密療法といふのを著し
 て、親切に指導し警告して居る、中にも奇抜な
 のは長身肥滿法といふのがある、此れは畢竟同
 會の製劑たる再生丸といふのを奨めるための説

明書であるが、服薬攝生兩つながら宜しきを得
 れば、身體矮小の人も長大肥満するといふ實驗
 理法を示したもので、而かも能く時好に投じ、
 廣く歡迎せられつゝあるもの、一つである、其
 他學生の爲めには吃音の矯正法だの、惡癖の矯
 正法だの、近視眼の治療法だの、トラホームや
 肺病、脚氣の療法だのと一々枚舉に違あらぬ程
 である、要するに着眼常に人の意表に出で、而
 かも其立案は皆進歩的學理的實驗的であつて、

曾に低級の讀者に通俗的知識を與ふるのみでは
 なく、往々識者具眼者の首肯に價するものが少
 くない、蓋し君の事業は少くとも時勢の要求に
 應じてゐないものはない、
 今又本書を著して大に鼻論を鼓吹せらる、古
 は鼻高きが故に貴からずと戒められたが、社交
 の盛んなる今日、容貌第一の標的たる鼻の研究
 は決して徒爾ならずと信ずるものである、例に
 よつて君一流の鼻通を振り廻はして細大漏さず

殊に最新の學説は一々實驗に徴すべく、鼻はだ
 有益の著書である、豈獨り獅鼻、團子鼻の福音
 のみでない、僕耳鼻咽喉科たるの故を以て、何
 か本書に序せよと云ふ、仍て聊か君の爲めに僕
 の信ずる所を書いて其責を塞ぐ。

大正三年六月始

下田良敬識

整形 隆鼻法目次

緒論……………一

鼻は顔面の裝飾物……………二

鼻はすべからく隆かる可し……………三

鼻の形は人格に關す……………四

外鼻の構造……………六

鼻の隆さは文明人なり……………八

鼻形の種類……………八

鼻形の整美……………一〇

鼻整形術……………一一

造鼻術……………一三

興味ある話……………一五

一部造鼻術……………一七

隆鼻術……………一八

隆鼻術の來歴……………二〇

「バラヒキン」注射の恐怖時代……………二二

「スタイン」氏の改良……………二四

隆鼻術の支度……………二五

「バラヒキン」の用意……………二七

「バラヒキン」を溶す……………二八

器械及局部の消毒……………二九

局處麻酔……………三〇

手術を施す部位……………三一

手術の方式……………三二

手術後の手當……………三四

手術後の経過……………三五

注意すべき事項……………三六

隆鼻術の適するものと否らざるもの……………三七

隆鼻術餘談……………四〇

鼻の病氣と其治療法……………四二

内鼻の構造……………四二

鼻の容體……………四四

鼻閉塞……………四五

鼻汁の異常……………四六

嗅覺の障害……………四七

4

衄血	四八
發音の變化	四八
其他の容體	四八
鼻病の種類と其療法	四九
鼻入口部の水瘡鬚瘡及癬	四九
赤鼻	五五
急性鼻感冒	五七
慢性肥厚性鼻炎	六〇
慢性削瘦性鼻炎	六三
鼻茸	六五
鼻咽腔腺性増殖症	六七
副鼻腔の蓄膿	七一
衄血	七二

整形隆鼻法

附 鼻病療法

鴨田脩治著

緒論

1

或る西洋の學者は「人は社交的動物である」と云ひましたが、人は快樂を社交に求め社交に快樂を願ふと云ふことは人の人たる所以であります、誰でも交際場裡に於て大に持つてんことを希ふのである、皆な、ちやほや、せられ交際場裡の花と云ははる美男や美女たらんことを希ふには其資格があります、其資格

はどうかと云ひますに、身長も適當になくはならず餘り瘦過ぎたり肥過たのも宜敷くない、所謂中肉でなくてはならぬのでありますか、第一の標的となるものは顔貌であります。よく世人は『顔の美醜には關らない心掛さへ良ければそれでよい』と云ますが、人としては無論心掛が肝腎なので、心掛と容貌とは別問題です、これを混淆して負惜しみの屁理屈を云ふので畢章美男や美女を呪ふ言葉に過ないので、醜男は養子の口が乏しく、容貌の悪い娘の縁遠いことは誰でも否認することは出来ずまい。

鼻は顔面の裝飾物

人は大に容貌が美くなくてははいけません、容貌と云へば顔貌を云ふので、顔の中で第一に眼に附く者は鼻であります、鼻は顔面に於ける美術的の飾物でありますから、顔の總てが良くても鼻が獅子鼻や團子鼻では、頗る難有くないではありませんか、よし眼や口にどれ程愛嬌があつても到底美顔とは申されません。

鼻はすべからく隆かる可し

顔容が麗しく規則立ちて見えるのは鼻筋が通つて居るからであります、鼻筋が通つて居るのは鼻が隆いからです、低い鼻に鼻筋の通つて居るのはありません、『鼻は顔面の高山にしてすべからく隆かる可

し』とは相貌學に云ふ所ですが、美貌術に於てもその通りです、鼻が低いと顔全體の輪廓が不鮮明で頗る締りのない顔になります、誰でも知つて居る事ですが、婦人が化粧した後で別に鼻筋丈に粉白粉を刷毛で叩いて置のは何の爲めです、また俳優殊に女優などが更に鼻筋の兩側へ紅で線を引くのは何の爲めです、つまり鼻筋が通つて鼻が隆く見へる様に、鼻の輪廓を鮮明にし顔全體を立派に見せんとするのに外ならぬのです。

鼻の形は人格に關す

美貌の爲め鼻の隆いのが必要ばかりでなく、鼻は其人の性格を標

示するものである、故に鼻の形は是非美しくなくてはならぬ鼻の形が麗しければ人格の良い顔貌であると云はれ、鼻の形が醜と奸物であるとか、間の抜けた顔であるとか批評せられます、骨相學では鼻は事物を裁判する審判官で又金銭出納の事を司とる財帛官であるから、鼻の發達した人は幸福で、鼻の發達の鈍かつたり或は異形の鼻は福祿共に尠く薄運の人であると云ふてあります。

西洋でも鼻は個人性を標示するもの故是非發達して隆くなくてはならぬとしてあります、彼の美術家が麗しい鼻の形として居ります處の希臘鼻や羅馬鼻は、古代文化の盛んであつた希臘や羅馬の繪や彫刻物などに現れて居る鼻の形で、美しい性格を現はさんが爲めに理

想化せられたる鼻の形であります

外鼻の構造

顔貌の醜美を左右する鼻は誰も知つて居る通り不正三角の錐體形でありますが、解剖學では之を内鼻と外鼻とに別ちます、内鼻とは鼻腔のある處を云ふので、外鼻は鼻の表面を指して云ふのです其の外貌に關係のあるのは外鼻でありますから茲には外鼻の大略を述べて内鼻の事は鼻の病を述べる際に述べることに致します。

外鼻は單に鼻と云ひます、鼻の附根即ち眉間から鼻に移る處を鼻根と名づけます、鼻の屋根を鼻背又は鼻梁と稱へ俗に鼻筋と云ふのは

即ち茲の事である、鼻梁の下端で突き出て居る處を鼻尖と云ひます鼻尖から上唇に移る處までの間即ち鼻孔のある處を鼻底と名づけます、鼻尖の左右に在つて鼻孔の外側を覆ふて居る膨れた處を鼻翼と名け俗に小鼻と云ひます、それから左右の鼻孔の真中に在る鼻の柱となつて居るのを鼻中隔と稱へ俗に鼻の障子と云ひます。

鼻の基礎即ち骨格は其大部分は軟骨で小部分が骨であります、鼻の骨の部分は上方であつて、前額骨の鼻突起と一對の鼻骨とで、鼻根及び鼻梁を作つて居ります、下の方は鼻中隔軟骨と鼻翼軟骨とから出來て居ります、

骨の處は其上を只だ皮膚のみで裝飾して居るのですが、軟骨の處に

は皮膚の外に鼻翼擧筋及鼻翼壓筋など云ふ筋肉があります。

鼻の隆きは文明人なり

鼻は知識の發達するに従ひ隆くなるものです、即ち野蠻人は一般に鼻が低く、文明人は鼻が隆い、これは人智が進むと共に鼻中隔即ち鼻の柱が發達するから自然鼻梁が押し上げられて隆くなるのである。

鼻形の種類

は澤山ありますが、要はどの様な形がよいかを證議するのである、西洋では希臘鼻や羅馬鼻の型もありますが、東洋殊に日本では之を

以て律することは出来ません、東洋では龍鼻と云ふて龍の鼻の様な鼻がよいとしてあります、即ち何處も平均を得て發達した鼻で、中肉で鼻根から鼻尖まで鼻筋が正中に通り、鼻尖がふつくりと隆まり小鼻が餘り大きくなく、そして肉が厚いのであります、相書にも此鼻は貴き事三公に列すと書いてあつて、頗る人品の良く見える鼻の形である。

それから獅子鼻で、これは發育が不完全な鼻で、鼻中隔の發育が悪く爲め鼻梁が隆くなく平になつて横に廣がり、鼻尖が過大に發達して圓く太くなり、小鼻が外に闊けて居るので、この鼻の形は骨相上にては良いとのことであるが、頗る醜い鼻であります、また鷺鼻

と云ふて鼻尖が甚しく屈曲した鼻がありますが、これは羅馬鼻の型であるとのことであるが、西洋人なら兎も角、日本人の鼻には甚く嫌れる形なのです、また截筒鼻と云ふて竹筒を截つた様な鼻や瘦て骨々した露骨鼻や、鼻梁の途中に突起のある段鼻即ち孤峰鼻や鼻梁に凹のある鞍鼻や、裏天鼻、眼鏡鼻、煙突鼻、團子鼻、柘榴鼻など數へ来れば種々ありますが、恰好の悪い鼻は顔貌を損し爲に社交にどれ程邪魔になるか知れませんが、特に青年とか妙齡の女兒などは此不幸の爲に社交を耻ぢて、可惜花の盛を悲觀鬱憂て暮さねばならぬ様な可愛想な事實が世間には澤山有らうと思はれます。

鼻形の整美

然し醫術の進歩した今日では假令鼻が落ちて全然無くなつたのも、造鼻術と云ふ方法で之を再造し、一部の欠損は一部造鼻術で修繕し、形が曲つたり形の醜いのは鼻整形術で形を直し、低い鼻は隆鼻術で隆くすることが出来るのです、それ故鼻の形が醜いからとて何も悲觀する事はありません、此等の方法で整美すれば親讓の醜い獅子鼻でも、病氣其他の原因から來た後天的の醜い鼻でも、之を改良して立派な鼻の形とし、麗しい顔貌とする事が容易に出来るのである、實に學術の進歩は驚くべきである。

鼻整形術

前に述べた様に鼻の形が曲つたり横に倒れたりして醜いものや獅子鼻團子鼻、驚鼻の如きは就れも鼻整形術で、鼻腔内から手術して外面に何等の痕跡を止めずして鼻形を整美することが出来る。

整美の方法は種々ありますが其の一例を申し上げますと、獅子鼻の如き鼻梁の平で広いものは、鼻腔内に利刀を挿し入て、内部の粘膜を切り、次に注意して皮膚を傷つけない様に、鼻骨と上顎骨との附着部を開放し、そして一種の器械で鼻の左右から輕微の壓力を加へると鼻骨の附着部が僅に移動して鼻梁を高くします、そして久しからずして骨片は互に癒へ着きますから、鼻形は立派に改善せられます、又近頃我國人の考案になつた隆鼻器と云ふのが、此の器械を一

定の時期中鼻中に挿入し置くのであるが、何等の不快を感じず知らず識ずの間に鼻骨の矯正發育を促がし随て其形狀を良好にするものである、且つ本器は内國製の品として價格も餘り高からざれば各階級を通じて容易に得らるゝ品である、しかも其構造に充分の意匠と注意が拂ひあれば使用して體裁悪くなく一寸他人に氣付かるゝ恐れもなく至極輕便な器械である、故に著者は前に述べた如き手數と、痛い思をするよりも少々は餘計の日數が掛ても日本製の隆鼻器を推奨したのである、

造鼻術

梅毒や其他の病氣で鼻の全然缺けて無くなつたのには、前にも述べた様に造鼻術で再造します、此方法は太古印度の國法で罪人の鼻を削ぎ後の標徴とする事が行はれましたとき、鼻を削がれた罪人の醜を救ふ爲に起つたので、前額の皮膚を剝て鼻の欠けた處に縫接る方法であります、其方法を摘んで述べますが、先づ絆創膏で造るべき鼻の型を切り、之を額に貼り付け、更に欠けて居る部位の周縁を切り開いて三角形の創を作ります、それから絆創膏の型の通り前額の皮膚を切るのですが、全く切り離すのでなく養ひの爲めの莖を作つて置くのです、それから此切片を剝して之を垂らし、嚮に造つてあつた三角形の新しい創の面に覆ひ縫ひ合すのです、此方法を印度

式と云ひます。
然し顔面に創痕があつたり其他の事柄で、顔ては皮膚の切片を造る事の出来ない場合があります、この時には上膊の皮膚を用ひます、此方法は五百年前に伊太利の『ダグリオコッサ』と云ふ人が發案せられたので、之を伊太利式と云ひます、今では佛國式だの獨逸式だの種々の方法がありますが、皆な此の二式を改良したものです。
造鼻術 即ち鼻の再造は我邦でも佐藤博士其他の大家が施術せられて居ります。

興味ある話

近頃の米國新聞に記載されてあつた「フィラデルヒヤ」の「モイヤ」なる人が受けた手術であります、此人は全然鼻がないので容貌甚く醜く、其結果職業を求むる事が困難であつたのです、そこで鼻を再造して容貌を良くしたら職業を得られるであらうと云ふ考を起し「ザマリダン」病院で手術を受けたのです、手術の方式は印度式に依つたので、外科醫は先づ以前鼻のあつた部分を覆ふて居る皮膚を切り開いて新しい創面を作りました、次に僅に残つて居た、鼻を削つて鼻梁の形を作りました、そして鼻の上部に接せる前額で皮膚を切つて切片を作りました、此切片を剝して新造の鼻梁の上に垂下せしめて鼻を作らうとしたのであります、元來此人の鼻の残つて居

つた部分は、僅に鼻の障子をなす處の軟骨丈であつて、其表面は殆んど平であつたのです、そこで前額から剝垂した皮膚の切片を此の小さき軟骨に覆ひ兩側で縫着けたのであります、次に困難の仕事は鼻孔を作る事であつたのですが醫師は短き護謨管を障子の兩側に挿し込みました、これで第一回の手術は終つたので有が、切片の莖が旋轉して残り居つて鼻は尙ほ曲つて居つたのである、其後二週間して第二回の手術を行ひ茲に新しい鼻を完成しました、斯くて退院しました時には新しい鼻は舊の鼻より稍々小形ではありましたが、容貌は著しく改善せられたと云ふ事である。

一部造鼻術

鼻の一局部の欠けたときは一部造鼻術に依て整美するのであるが、其方法は欠けた處へ頬や上唇の皮膚を補つて修繕するのであります、近頃岡田博士は鼻翼の一部が欠けて居るので耳殻の一片を移植して甘く鼻の形を整美せられました。

隆鼻術

前に述べました鼻の再造や修繕や整形術などは昔からあつたのを段々改良したのですが、近頃流行します美容隆鼻術と云ふは極く新しい発見です、此方法が発見せられる前にも低い鼻を隆くする事については、歐洲の諸大家も大分苦心しました、金や象牙の板を鼻梁の皮

膚の下に挿込んだり、鼻腔から金屬板を挿し上げて見たりしました、が、どうも思ふ様に行ないのであつたのです。處がこの方法を発見せられて低鼻者に一大福音を傳へました。此隆鼻術と云ふ方法は「バラヒキン」と云ふ藥品を鼻梁の皮膚の下へ注射して鼻を隆くするのです。由來東洋人には鼻の低い者が多いのですが、西洋人中には鼻が餘り隆過ぎたり、或は鼻骨が肥大過ぎたりして、醜のを、骨を削つて普通の鼻形にすることがあります、これは隆鼻術に對して低鼻術とて云ふべきです、この鼻を低くする方法は我日本などは、未來永劫見ることは出来ずまい。

隆鼻術の來歴

「バラヒキン」の注射は元來「ワセリン」の注射に因て起つたのです。「ワセリン」では溶ける温度があまり低い爲め、發熱等のあつた場合に其形が崩れるから「バラヒキン」を用ゆる事になつたのです、事の起りは千九百年我明治三十三年奧國維那の「ケルスニイ」と云ふ醫者が、翠丸のない患者に裝身の爲め「バラヒキン」軟膏と云ふて、「バラヒキン」と「ワセリン」とを混じたものを患者の陰囊内に注入して人工的に翠丸を造つた處或程度まで甘く行つたのです、そこでまた同氏は此注射を乳房の小さい婦人に試みて、其乳房を大

く見える様にしました、また婦人の糞尿失禁と云ふて大小便が縮なく漏れるものがあります、これは膀胱や直腸に瘻孔があつてその孔が腫にくつゝいて居るのです。この爲に大小便が陰部から縮なく漏れる患者に、注射して其瘻孔を塞ぎてこれを治癒せしめました、また硬口蓋穿孔と云ふて、口の天井に孔が開いて居るのに注射して其の孔を塞ぎましたまた軟口蓋の欠損と云ふて、病氣の爲めに口の天井の奥の方が欠けて其れが爲め聲が變になつたものに注射して、この欠けた部分を補ひ聲を矯正しました、かういふ風に「フルスニイ」氏は「バラヒキン」注射を一部は治療的に一部は美裝的に應用したので、さあ此報告が傳ると「バラヒキン」注射應用の術は醫

界を震動しまして、一瀉千里の勢で世界中に廣まりました。其翌年即ち我明治三十四年に「ヤポレー」とか「スタイン」とか英國の「スペインサー」など云ふ人々が、梅毒で鼻梁の凹んで居るのを此注射法で隆くしたのが、隆鼻術の元祖であります、それから諸國の大家も續々之に倣ふて「パラヒキン」注射を行ひました、我日本では明治三十七年冬東京大學で、岡田博士及助手の寺田學士が施術せられたのが嚆矢であります。

「パラヒキン」注射の恐怖時代

然るに「ケルスニー」氏の發明の翌年「ファンテンチール」と云ふ

人は膀胱瘻と云ふて、膀胱に小さな孔が穿いた患者に、瘻孔の周圍に「パラヒキン」を注射して孔を塞がんと企てましたが、不幸にも肺臓と腦の血管に故障が出来て患者は遂に死亡しました、こゝに於て「パラヒキン」の注射は大に危険であると云ふ報告が出ました、また「ハルバル」と云ふ人も斯様な場合があつたと云ひました。また「ライゼル」と云ふ人は「ゲルスニー」氏の法に倣ひ一藥劑師の鼻の皮下へ注射しました處が、注射が終ると同時に患者は虚脱症に陥り仆れました、そこで「エーテル」の吸入や人工呼吸をやつと蘇生させましたが左眼が失明しました、これは恐らく鼻背の血管と眼の血管とは連いて居るから、血管から眼に故障が傳へられたもの

てあらうこんな次第で方々から非難の聲が起り、大に危険視せられたのであります。

「スタイン」氏の改良

其後「スタイン」氏は研究の結果「バラヒキン」注射は無害であつて、また前の様に血管に故障を來すものでないことを確かめられた、同氏の説に依りますと、畢竟「バラヒキン」注射に合併する危険は溶ける温度の低い爲めて、即ち軟過ぎる爲めてあります、溶ける温度が高くて固いものを用ゆれば何等の弊害もなく安全であります「ゲルスニイ」氏の「バラヒキン」軟膏は注射してから早く固

らず、固るに多くの時間を要しますのみならず、流動して居る間に体内の脂肪や「コレステリアン」の作用で吸収せられます、然し溶る温度の高い固い「バラヒキン」を用ゆると、注射後軟骨の様な硬さになるから全く吸収せられる事なく、それ故肺臓や脳の血管に故障を起すことはないのであります。

溶る温度の高い固い「バラヒキン」を注射する爲め「エツクスタイン」と云ふ人は一種の注射器を發明せられました此器械は「バラヒキン」の容れてある筒の周圍に蛇管があつて、蛇管に熱湯が通つて常に「バラヒキン」を溶して居るので、然しこれで注射すると熱したのを注射するのであるから火傷などを起す恐れがあつて面白く

ないのです。

處が「スタイン」氏は千九百五年（我明治三十七年に）此迄の注射器を改良し現今使用せられる凝固「パラヒキン」注射器を發明せられました、今日では注射器の種類が澤山になりました、我日本でも寺田式、千葉式、柏原式など種々あります、けれども皆な「スタイン」氏式を改良したものです。

隆鼻術の支度

隆鼻術は無論専門家でなければ出来ない仕事ですが、其手術は極めて簡単なものであります、然し何んな仕事でも其仕事に取掛る前に

はそれ相當の支度があるもので、此手術を施す前に第一番に必要なのが

「パラヒキン」の用意

である、此手術に用ゆる「パラヒキン」は普通販賣して居る品を用ゆるのではなく、これは「パラヒキン」注射用として特に製造せられてあるのを購求して用ゆるのである、この注射用の「パラヒキン」には溶ける温度の低いや高いのや種々あるのであるから、使用しようと思ふ温度のものを求めるのです。

人體の平均温度は攝氏三十六度八分でありますから、攝氏四十八度

位で溶ける「パラヒキン」を用ると極めて容易く仕事が出来ます、
けれども體温と「パラヒキン」の溶ける温度の差が少ない爲め軟
過ぎて成績が面白くないので、それ故仕事は六ヶ敷ても攝氏五十五
度以上八九十度位で溶ける「パラヒキン」を撰ばねばなりません

「パラヒキン」を溶す法

右の「パラヒキン」を打ち砕いて豫め消毒してあつた試験管に容
れ、直ちに火の上で溶します、其溶し方は上の方から段々と溶かし
て行きます、若し下端を急に熟しますと、上層は猶硬いのに下層が
溶けて膨脹する爲め、試験管の徒らに破壊することがあります、そ

れから之を透して見て曇りがなく、全然透明であれば全く溶けたの
てありますから、試験管の口に綿の栓をして栓の上を鳥度焼て置き
之を今器械を消毒しつゝある煮沸消毒罐中に容れ固まらない様にし
て置きます。
茲に一言断て置きますが、斯く「パラヒキン」を溶したとして、その溶
けて熱いのを注射するのではありません、これは注射器の圓筒へ容
れる爲めなので圓筒へ容れたれば冷却して凝固したのを押し出して
注射するのであります。

器械及局部の消毒

器械は必ず消毒罐中に容れ充分煮沸して無菌即ち微菌が殺されてしまつたものを使用するのです。
手術を行ふべき局部は殺菌水や、昇汞水や、「アルコール」などで充分嚴重に消毒した上で手術に取り掛るのであります、けれども無痛的に手術するには

局處麻醉

と云ふて「クロールエチール」や「コカイン」など云ふ薬品を豫め注射して、其部の感覚がなくなつてから手術に掛ることがあります、けれども疼痛と云ふても左程の事もないのですからこんな煩雜

な事をせずして直ぐに手術することもあります、

手術を施す部位

即ち何處から針を刺すべきかですが、鼻の恰好や隆くしようと思ふ部位等の關係から定めるので、鼻根即ち眉間の中央から刺すこともあり、鼻先から刺すことも、又鼻の側方或は中央からすることもあります、そして針を刺す部位に依り仕事に難易があります、眉間からする場合には鼻の隆さを見るには不便でありますが仕事は樂であります、鼻先からする場合は鼻の全體を俯視しつゝある故「パラヒキン」の注射量と、出來つゝある鼻の形や其高さを知るの便があり

ます、

手術の方式

即ち注射の方法を述べます、先づ小さな針で皮膚を刺して孔を作ります、次に「バラヒキン」を注射器の圓筒に流し込み、筒の端に注射管を附けます、そこで、小針を牽き抜くや否やその殘孔から注射管を挿し込みます、次に隆くしやうと思ふ處まで管の端を送りまして「バラヒキン」を押し出すのでありますが、押出すには圓筒の一方にある螺旋仕掛を廻すのです、すると注射管の尖から「バラヒキン」が固形の儘で、線状となつて押し出され、そこへ「バラヒキン」

の塊が出来ます、この塊が鼻の凹みを填充したかどうかを、調へ指頭で摘みながら思ふ通に鼻梁を隆くします、斯く形を整しつゝ、「バラヒキン」を押し出し、注射器の手に溢れるまで注射します、思ふ丈注射して、注射管を抜き取るにはこれまた注意が入ります、若しそろ／＼と靜に管を抜き取りますと、注射した「バラヒキン」は注射管の端に連なり白糸の様になつて出てきますから、折角の手術と骨折と目的とが全く無駄となつてしまいます、それ故抜き去らんとする部位に近づいたら、注射管の端を急速に曲げて注射した「バラヒキン」を切り斷して抜き取るのであります。注射管を抜き取つて後の創口には「コロヂウム」と云ふ藥を塗つて

絆創膏の薄片で封すれば手術は終つたのであります、また近頃は創口からの出血は僅であるから、「コロヂウム」を塗らずに暫時放置して流れ出た血が凝まり、血が止つてから絆創膏を貼ります。手術に要する時間は長くとも、七八分短きは三四分でありますからそれ故手術に取り掛る前に「バラヒキン」を溶したり、局處麻酔を行つたりする時間を合算しましても僅十分乃至十五分位で出来上ります。

手術後の手當

創口は二日乃至四日て治癒します、其間は創口の邊は清潔に保つて

決して創口へ不潔の手とか「ハンケチ」などを觸れてはなりません、また面を洗ふ時でも湯水で此創口を汚さない様に注意せねばなりません、それから三四日して絆創膏を剝取れば最早別に手當の必要は入りません。

手術後の経過

手術後は少しく鼻の附近が茫と軽く腫れて、翌日から段々と減じ五日から七日目位で全く腫も退いてしまします、この腫は「バラヒキン」の注射量には關係がなく、却て針を刺した位置と技の巧拙とに關係あるようです、又手術を受けた人の感じは、始め鼻梁に重く壓

迫する様な感じがあつて、七日目位から此感が去り天然の鼻と同じ心持になります、又施術した局所は初はてか〜光つて居りますがこれは皮下の「バラヒキン」の塊と腫との爲であるが、これも漸々に消へ失せませす、又淡紅色を呈することもありますが、これは速に消散します。

注意すべき事項

人によると平素鼻を撫てたり摘んだりする癖があります、手術後はたまに軽く觸るのは敢て差支はない然し、絶えず強く撫てまはしたり摘んだりするのはよろしくないのであります、手術當時一二

ヶ月間は「バラヒキン」と周囲の組織とがまた緊密に接着していません、この時に劇しい摩擦が加はりますと、周囲の組織と「バラヒキン」との間に弛みが出来て其へ水が溜つたりして「バラヒキン」が移動する事があります、そうなるや折角の手術も功果を見ない様になるのでありますから、隆鼻術を受けた後は一二ヶ月は無論の事其後でも絶間なく鼻を撫てる事はよろしく禁止すべき事です。

隆鼻術の適するものと否らざるもの

隆鼻術は低鼻にはどれへても施してよいかと云ふにそうは行きません、之を施しても無駄なものもありまた施す事の出来ぬ場合が有りま

す。
我日本には一種親譲の低い鼻があつて顔貌大に振はず一身一家の不運と嘆きつゝあるものがあります。此等の低鼻者は手術を受けて顔貌を整美するが宜敷のですが、然し低い鼻でも鼻尖が割合に高く幅の狭い、所謂小鼻程整美が良く出来て立派な鼻になります、けれども鼻の幅が広く鼻尖の低い程手術は六ヶ敷のであります、それから男子と婦人とはどうかと云ふに婦人は皮膚が柔てありますから手術が樂であります。
次に梅毒などで鼻梁の中央が窪くなつた鞍鼻や裏天鼻などを整美するには、此隆鼻術を行ふが一番宜敷いのであります、此術で大抵美

形の鼻に復することが出来ます、然し梅毒で鼻の形が醜くなつて此術を行ふ場合は、先づ全身の診察をして、梅毒が全く治癒したものであれば此術を行ふべきであります、若し少しでも梅毒の容體があるときは再び梅毒の治療さして、全く梅毒の疑なきに到つて此術を施すべきものとす。
一體隆鼻術を行ふに必要な條件は鼻中隔の存在する場合です、若し鼻中隔が欠けて全然無い場合には如何に熟練した技術家でも術の施し様がないのである、若し又強て施術した處で支柱がないから、鼻の恰好が崩れて駄目になります、又鼻中隔が残つて居るにしても其欠損が大なれば従つて手術が困難ですまた、鼻梁の皮膚と其下と

癒着て居るものがあります、此場合にも其癒着の度によつて手術は六ヶ敷くなるのです。

隆鼻術餘談

隆鼻術は熟練せる技術家に依りて善用せられた場合には良好なる果結を見、注射されたる自身も驚く程であります、不熟練な醫師に前後の考もなく、手術して貰ふ場合には往々悪結果になることがあります、美貌たらんと欲して却て前より醜貌になることかあります、「パラヒキン」を注射した鼻で其恰好が駱駝の背中の様な奇妙な形になつたのをよく見受ける事があります、斯なつては其注射した「パ

ラヒキン」を抽出し、手術の仕直をせねばなりません、こう云ふ場合合に使用する爲め「パラヒキン」抽出器と云ふ器械があります、又不熟練の技術家は注射針を皮膚の外へ突き出すことがあります、此際には手術を中止し其創を治療し、治療後再舉を謀るより外はないのです。最後に尚ほ注意すべき一事があります、それは骨相上の關係であつて、常識に由りて考へ審美上差支がなかつたらよい様なもの、尚骨相學上の事を気にする人がありますから、或る場合は之をも斟酌して鼻の形を造らないと術を受た人が後に精神上に大苦痛を生ずるやうな事があります。

鼻の病氣と其療法

内鼻の構造

鼻の病氣には種々あつて、外部を侵す病氣もありますが、多くは内部が侵されるものです、故に鼻の病氣を知るには鼻の内部即ち内鼻の構造を知らねばなりません。

内鼻は鼻腔のある處で、鼻腔は鼻中隔に由て左右に切半せられ天井は腦の底まで廣がつて居ります口と同じ方向に奥の方へ進み、底は口腔の天井であります。

側方の骨壁からは上甲介、中甲介、下甲介と云ふ、三枚の貝殻の様

な骨が突き出て三段の棚を作つて居ります、此棚は上は小さく、中は稍々大きく下が一番大きくあります、そして中及下殊に下の棚の周圍には海綿様組織と云ふて、丁度海綿の様に膨れたり縮まつたりする、血管に富た組織に包まれて居ります。

内鼻の天井は身體の最高機關たる腦髓を納めて居る頭蓋骨の底であつて、境界をなして居る骨が處によると紙よりも薄い事がありまた時には生れつき骨が欠けて僅に薄い軟膜で境をなしたり、稀には此膜さへなくて開放の孔となつて居る事もあるのです、そして血管や神経や淋巴管が繁華な都會の電信線や電話線の様に通つて居ります又大切の視神経も鼻の天井を貫通して居ります。

鼻腔の奥は鼻中隔が盡きて左右の鼻腔が一所になつて、圓い曲つた筒の形となつて咽へ移り行きます、此部を鼻咽喉と名けます、此部の兩側壁に小さな孔があつて耳に通じてをります、之を歐氏管と云ます、また鼻涙管と名つける管があつて涙が鼻に流れ込み、また前額の骨には前額竇と云ひ、上顎の骨には上顎竇と云ふ空洞があります、これが皆な鼻に交通して居ります。

鼻病の容體

鼻は顔面の美を整へる外に尙ほ重大な任務があります、即ち呼吸する作用、言語を整へる作用、匂を感じる作用であります、それから

鼻は氣道の門戸であります故に種々の有害物は好んで此處から進入して、種々の病氣を惹起しますのみならず、鼻の病氣から全身諸部の障害を誘ひ起しますから、鼻の衛生や鼻病の豫防や治療には大に注意せねばなりません、そこで鼻が病氣に罹つた、これは鼻が悪いのであると云ふ容體の主なるものを次に述べます。

第一 鼻閉塞

鼻のつまるのは鼻の粘膜が炎症の爲めに腫れたり、腫腸が出来たり異物が鼻の内に入つた時や、鼻中隔の變態等に依るのであります、其閉塞にも種々程度があつて、全く閉つて空氣の通はないのも、僅につまり居るものもあります、また眞實に閉つたのでなくても、鼻の粘膜が非常に乾きますと閉つた感をするこ

とがあります、之を假性閉塞と云ひます。

持續せる慢性の鼻閉塞は十中八九までが慢性肥厚性鼻炎で、次が鼻茸、鼻中隔異常であります、併し小兒の鼻閉塞は多くは鼻咽喉の腺性増殖症と云ふ病氣であります。

鼻が閉りますと消化器や呼吸器の病氣を起すのは勿論、貧血、營養不良等となりますし、其外に精神作用や神經機能を害せられる事實には甚敷あります、殊に小兒の鼻閉塞は智識、身體の發達を害し、且つ將來低能兒たらしめ、尙ほ虛弱多病の體質としますから最も注意せねばなりません。

第二 鼻汁の異常、鼻汁は元來鼻の内面を潤す丈なればよいのです

鼻の粘膜に炎症がありますと水涕が流れ出ます、之を鼻液漏泄症と云ひます、また反對に乾燥することがあります、急性鼻カタル即ち鼻邪の初期でなければ、慢性削瘦性鼻炎即ち鼻腔の大きくなる病氣であります、また鼻汁の濃くなつたり、膿の様になることがあります、殊に副鼻腔蓄膿と云ふて上顎骨竇や前額骨腔の病氣で茲に膿が溜ると膿の様な鼻汁が出ます。

第三 嗅覺の障害、鼻が悪なると匂を嗅ぐことが出来なくなり、又は匂の感じが人より一層強く感ずることがあります、匂の感じの弱かつたり、欠けたりするのは生れ付の人もありますが、腫れの爲に匂の空氣が鼻の上隅の嗅覺部に觸れないで起るのもあり、

腦や神經の病から來るものもあります。

匂を一層強く感ずるのは鼻腔が廣くなつた爲めに嗅覺部に匂の空氣が強くなる爲め起るものもありますが、多くは腦や神經の病氣から來るので神經衰弱の人や「ヒステリー」の婦人に多いのであります。

第四 衄血、之は後に述べますから茲に省きます。

第五 發音の變化 美聲妙音 必しも喉頭的作用ばかりではありませ

せん、鼻が塞がつても亦明過ぎても忽ち鼻聲を帯びます。

第六 其他の容體 鼻が悪いと精神の障害や神經の病氣を起すものでありますから、鼻病者は逆上し易く頭重、頭痛を覺え、不眠

眩暈、卒倒を起し、神經衰弱となり、又寢小便や、癩癩、喘息、吃語なども鼻の病氣の一の症候となつて現はれる事があります。

鼻病の種類と其療法

鼻の病氣の種類は鼻科と云ふ一の専門科が出来て居る位であるから、素人が思ふよりも澤山あるのである、茲には其必要なるものを記して素人の手引草と致します。

鼻入口部の水瘡、鬚瘡、及疔

一 水瘡 醫者は之を濕疹と云ひます、鼻の入口が爛れて痂皮が出

來るので、又輝裂の出來ることもありますが、素人は逆上から來るとか或は蛔虫の作用とか云ひますが、原因は他にあるのです、即ち鼻病で、鼻が塞ると鼻汁を嗅んでも思ふ様に出ず、反つて何時とはなしに流れ出て殆終鼻の入口の皮膚が濕つて遂に爛れて水瘡が出來るのであります。

此の病は鼻の下が硬張りて痒味を覺へ少しばかりの疼痛ある位で、何でもない病氣の様であるが、其の水瘡が顔一杯に蔓延つたりまた、之からして顔面丹毒と云ふ恐しい病氣が進入することがありますから、早く治すがよいのである。

療法 根治法が第一です、それは鼻の塞る病氣を治すので、肥厚性

鼻炎や鼻茸や副鼻腔畜膿や小兒の腺性増殖症を治療するのであります、此等の原因たる病氣が其儘であると局處の手當て一旦は治りませんが其後間もなく再發します、故に平素から、二千倍アドナリン液を綿に浸して挿入し置けば効果がある患都の手當即ち局處治療法は此部へ脂肪類を絶ず塗つて置くのであります、けれどもあまり強い膏藥はよろしくありません。

處方

- 亞鉛華 〇、五
- 硼酸末 〇、二
- ワセリン 五、〇

右混合す
ラノリン

五、〇

此膏藥を一日數回塗り付けます、痂皮がとれてそこに赤い濕つた皮膚が現はれたれば毎日一回石鹼水か硼酸水で洗ひ其の跡へ次の藥を塗布して置きます。

處方

亞鉛華

一、〇

硼酸末

〇、三

澱粉

一〇、〇

右混合す

二 鬚瘡

これは鼻毛の根の周圍が化膿するので多小の疼痛及び緊張の感があります、男子であると口鬚にまで傳播ることがあります、原因は矢張鼻汁の刺戟から來るのです。

療法は瘡の中央の毛を抜き痂皮があれば之を除き毎日一二回石鹼水で洗ひ次の膏藥を塗つて置きます。

處方

亞鉛華

二、〇

レヅルチン

一、〇

ワゼリン

一〇、〇

ラノリン

一〇、〇

右混合す

三 癩 これは鼻の入口の皮脂腺が化膿するので、鼻毛を剃る際に傳染することが多いのである、この腫は初め壓重及緊張の感がある、次で疼痛を發します、其疼痛は随分劇しくあります、それから鼻尖及び鼻翼が腫れて赤くなり、時として熱が出て腫が顔面全體に及ぼし、生命の危険なる事があります。

療法は「イヒチオール」軟膏（イヒチオール〇、五、單軟膏五、〇）を塗り氷で局部を冷すもよいが、寧ろ早く醫師の處置を受けるがよいのである。

二 赤 鼻

これには鼻尖が只だ赤いのと、赤のに粉刺を合併したのと有ます、只だ赤のを紅斑と云ひまして、凍傷の跡や貧血、逆上、「ヒステリー」の婦人、心臟病者等に起ります、其療法は原因を除くを第一とします、即ち貧血には鐵劑、逆上には下劑「ヒステリー」には強壯劑や神經を鎮める藥等を用ひます、また局部處療法としては就寢前に次の膏藥を塗つて朝起てから之を拭ひ去ります。

チオノール

〇、三

グリスリン

五、〇

アルコール

一〇、〇

右混合す

赤の粉刺を合併して居るのを酒渣鼻と云ひます、これは劇しくな
りますと鼻が漸々肥大して柘榴鼻になります、酒渣鼻は飲酒家に最
も多いので、胃腸の悪い人や生殖器病のある婦人などに起ります、
そして婦人より男子の方に多くあります。

療法 軽度のものであれば次の薬を塗り試むべきです。

處方

亞鉛華

二、〇

チオノール

二、〇

ワゼリン

二〇、〇

右混合す

之を一日一回塗るのです、然し有効なのは白降膏の入つた膏薬を用
ゆるのであるが、これは劇薬であるから素人には求める事が出来ま
せん、また高度の酒渣鼻は醫師に治療を受けねば治癒致しません。

三 急性鼻感冒

これは又急性加答兒性鼻炎と云ひます。風邪から來るのが一番多い
ので、一度鼻感冒に罹ると再三罹る習慣になります、また風邪の外

には化學的や器械的の刺激に依つて起ります、即ち沃度加里の内服
 (沃度感胃)や有毒瓦斯、煤烟、塵埃等の吸入からも起ります、本
 病は録道旅行者に多い處から録道感胃と云ふ名があります、又化學
 や器械の作業に従事する者に起るのを職業的鼻加答兒と云ひます。
 鼻感胃の容體は先づ數日間全身違和、倦怠、前頭部感重、惡寒等の
 前驅症があつて、次で鼻腔内の灼熱、乾燥、癢痒等があつて、噴
 嚏、前頭痛を發し終に鼻汁過多となり、鼻腔塞り、時として匂を感
 ずる事が鈍くなり、聲は鼻聲となります。
 療法 この病は體質虛弱な者が反覆罹るのであるから、豫防法とし
 て冷水摩擦其他の身體練固法を行ひますがよろしい、塵埃中で仕事

をなし、或は化學工業に従事するものは手拭で鼻を覆ふが、鼻の入
 口に軽く綿の栓をして塵埃や有毒瓦斯が入らない様にすべきであり
 ます。
 既に鼻感胃に罹りたれば發汗療法を行ひ鼻汁が多く出て頭痛がした
 りする、簡易療法としては、二千倍アドリナリン液を脱脂綿に浸し
 て鼻腔に挿入し置けば治するものである、醫療としては次の塗藥を
 鼻腔に塗ります。

處方

單寧酸

グリスリン

一、〇

二十滴

水
右混合す

一〇〇、〇

四 慢性肥厚性鼻炎

此の病は急性鼻炎から移行するのが多いので、反覆感冒に罹ると本病となり、殊に腺病、貧血、痛風等ある人に於て然りとす、然し初から慢性で起るものもあります、其原因になるものは温度の調節及換氣等の不良なる不衛生的室内の起居、過度の喫烟及飲酒等に、男子に多く女子に少なくあります。本病の原因は上記の通りであります、永年の間に次第／＼に重く

なり、重くなつて氣のつくのであるから、何時頃から起つたのか記憶して居る人は殆んどありません。この病は鼻病の中で最も多い病氣であります、これは鼻腔内に三段の棚がある、その一番下の棚の下甲介と云ふのが腫れるので、下甲介の骨のみ腫れ、或は其周囲の海綿組織のみ腫れ、或は骨も周囲の組織も兩方とも腫れて鼻呼吸の道を塞ぐのであります、容體の主なる者は鼻閉塞であつて、初めは只鼻が重い様な感して、次に鼻が塞り易い様になりそれから、片方が塞り片方が通ると云ふ風になり、段々重くなつて鼻の呼吸が困難になつて來るのであります、それから患者が煩さいのは鼻汁が多くなり、且つ鼻を嗅ても全

く出さらず、度々鼻を嗅まねばならぬ事であり、また病気が永引に従ひ匂を感じる事が段々と鈍くなつて、全く匂を感じない様になることもあり、また鼻閉塞の結果として聲は鼻聲になりま

す。其他頭重、頭痛、眩暈、不眠、及鼻性神經衰弱等の諸障害を起し

療法原因を除き去ることが最も大切である、ので冷水摩擦其他方法で身體を練固にし風を引かぬ様にまた食餌に注意し、藥劑としては鐵劑を用ひて身體の強壯を謀るので、また局所療法としては輕症であれば「コカイン」や「アトリナリン」の塗布をなし、重症で

あれば、手術を行ふより外はないのです、故に家庭で治療することは六ヶ敷ので輕重を問はず醫者に掛るより外はありません。

五 慢性削瘦性鼻炎

この病氣は、一種特異の臭氣がありますから又臭鼻とも名づけま

す、それから臭い鼻汁は固つて結痂となり、これがこびり付て惡臭を放ちます。この病氣は永年の間に徐々に起るので、初めは鼻汁が少々多い位であつて、其他の容體がなく數年の後に至つて惡臭を發するので、

この悪臭を發する時期は十四五歳から十六七歳位の時が一番多いのであります。

患者の苦しむは鼻の塞りたる感(假性閉塞)、乾燥の感、鼻に悪臭ある事及び匂を感じる事の消失した事等でありすが、殊に患者の苦しむは乾燥の感、痂皮の出来る事及鼻の悪臭であります。

療法 短時日ではなか／＼治りません永き治療を要するものです、悪臭ある痂皮を除き去り、同時に其再生を防ぐのが療法の眼目でありすが之が難事でありすが、然し此目的としてグリスリン又はオレイフ油を脱肢綿に浸して挿入しをくのが宜しい又醫師療法としては次の洗薬で鼻の洗滌法を行ひます。

處方

食鹽

一五、〇

重曹

一五、〇

水

一〇〇〇、〇

右混合す

處方

過満俺酸加里

一、五

水

一〇〇〇、〇

右混合す

處方

イヒチオイル
薄荷油

グリスリン

〇、一
四滴
三〇、〇

右混合す

此洗薬で一日二回位洗ふのでありますが、痂皮のこびり附方が強ければ其回数を増すのであります、痂皮が取れますと悪臭は頓と去るものです、鼻を洗つてもどうも痂皮の取れないものは鼻腔に綿の栓を上方丈になし、下の方を開けて置いて、半時間乃至一時間経ちて下部で呼吸をして後ち栓をとると之に附いて出る事があります。近頃は臭鼻の治療法として鼻腔の粘膜の下に「ハラヒキン」注射を

六 鼻 茸

行ひます、此法に依ると大抵治療することが出来ます。

小児には稀れて大人に多く出来ますが、男女では男子の方に多くあります、この病は鼻の内に茸が出来る様に腫物が出来るのであります、主に中甲介から發生します、其色は海月の様で段々太くなれば、鼻の形が變り鼻梁が平たく大きくなります、のみならず大くなれば前は鼻孔から膨出したり、後は咽の方へ垂れ下る事があります。小な鼻茸では何んの感じもないが、若しくは噴嚏が頻りに出たり、

水涕が出たり前額に壓重を感じる位に過ぎませんが、大きくなつたものであると鼻呼吸の障害を來し、之が随伴症たる頭重、頭痛、眩暈、精神の障害、咽頭の乾燥、鼻聲等を來し、匂の感は鈍くなり鼻汁は多量になつて來ます。

療法としては醫者に掛り手術に依つて取り去つて貰ふより他はありませんが、藥物療法としては前處方の三番目の方を脱脂綿に浸して挿入せば大に効能あるも他藥は絶対に無効である。

七 鼻咽腔腺性増殖症

この病氣は鼻と咽との境である鼻咽腔の後壁の上方に出来る腫物で

ありまして、小兒に發する病氣で、小兒の鼻閉塞は十中八九はこの病氣である。

この病氣は永い間患者を苦しめるので、一二歳の頃に始まつて、それから段々腫物が大きくなり五歳から十六、七歳位までの間が著しく大くなります、夫からまた段々小くなり始め二十歳前後には消失しますが、たまには三四十歳位まで其痕跡が残つて居る事があります。

この病に罹つた小兒に口を開けさして咽を見ますと、咽の兩側から指頭くらの突出を見ます、これは扁桃腺が腫れて大くなつたのであります、そして此邊一帯が紅くなつてをります、それから鼻汁も

唾液も痰も澤山に出ます、また往々睡眠中に鼾聲を發する事があります。

この病は其腫物が小さい時は僅に鼻が塞る感がある丈であるが、腫物が大きいと鼻呼吸の障害を來し、之に伴ふ諸障害を起します、殊に病兒の知識身體の發達を害しますから注意せねばならぬ病氣であります。

療法 身體を強壯にし、輕きものは局部に塗藥をする方法もありますが、多くは鼻が塞つてから氣が附くのですから醫師に掛り手術によつて腫物を取去るより外はありません、が自宅療法としては二千百のアドナリン液を脱脂綿に浸して挿入して置のも宜敷のである。

八 副鼻腔の蓄膿

これは鼻の周圍の骨、腔洞に膿の滞る病で、最も多いのは上顎骨の腔洞に膿の溜るのであります、泥土の様な臭氣ある鼻汁が顔を前に屈める時に鼻孔から流れ出るのは多くこれであり、之は感冒からも來るし、齒根の病氣からも起ります、また左程の臭氣がなく膿が咽の方へ下るのは前額骨竇に膿が溜つたのであります。

この病は鼻汁の臭いばかりでなく、其膿汁を呑み下して胃腸を害したり、脳や神經の病を惹き起しました眼病を發す事があります。療法 二千倍のアドリナリン液を脱脂綿に浸して挿入せば効顯著な

り、姑息には鼻を洗ふのでありますが、實際の療法は醫者に掛つて手術を受けるより外はありません。

九 衄血

鼻中隔の前下部で鼻の入口から五分程中へ入いた所は粘膜が薄くて血管が多いから、此部は出血し易い、通常の衄血は大抵この部分から出血するのであります、軽い出血なれば暫時手指で鼻翼を撮んで居れば自然に止まります、脱脂綿又は普通の綿にて鼻孔に栓をなして置いてよいのであります、可成り収斂劑を浸して挿入するか然し老人や飲酒家や腎臓病、肝臓病を病つた人等は血管が脆くな

(大尾)

つて居りますから、出血し難い場合があつて往々生命に危険がありますから大に注意せねばなりません、また婦人には月經の代に衄血を起すことがあります、右に述べました外に鼻には結核や微毒や其他種々の傳染病も起りますし、癌腫や肉腫や、纖維腫など云ふ腫瘍も出來ますが、之れ等の病症は素人が家庭で治療することは不可能でありますから之を省きます。

大正三年六月廿日印
大正三年七月三日發行

正價金四十錢



著者

鴨田脩治

發行者

東京市本郷區丸山福山町四番地
鴨田鎮雄

印刷者

小泉重助

印刷所

東京市京橋區新富町三丁目二番地
日新印刷株式會社

發行所
大賣捌

東京市本郷區丸山福山町四番地
東京市神田區表神保町二番地

日本藥學協會
修學堂書店

藥學講義錄

結完

入會隨意

(注意) 細則を知らんこと
送れば郵券二錢を
二十錢を要す

- 目的 會員に毎月二回本講義録を配布し自宅に在りて文部省施行の藥劑師開業試験學科を講習せしむるに在り
- 學期 入會者には初號より配布し十七ヶ月にて卒業を期せしめ通信試験によりて卒業證書を授く
- 會費 一ヶ月分金三十五錢、二ヶ月分金七十錢、三ヶ月分金一圓、六ヶ月分金一圓九十錢、全部金五圓前納の事(全部三十五冊一時に送本す)但し郵券代用は一割増(二錢切手以下)
- 特色 學識、經驗兩ながら具備せる講師數名の執筆に係り記述親切平易にして複雑なる學理を解析すること之を掌に指すが如し(醫藥新報評斯學唯一の自修書にして通信教授の上乗なるものにして、亦藥業家の好伴侶たり)

實用職業學講義錄

完結

入會隨意

(注意) 細則は郵券三
限り二十五錢を送れ

一(目的) 會員に毎月二回本講義録を配布し適當の職業を得せしむるに在り、蓋し職業の如何は人の品位に關すること大なり、體裁よく勞働少なく而して利益多き職業を選択せんと欲する者は本講義録に就いて之を索めよ。二(學期) 入會者には初號より配布し七ヶ月を以て卒業せしめ修業證書を與ふ。三(科目) 専ら文明的確實多望の工業數種を網羅し専門の技師學士之を講述す、科目大要左の如し。

工業製造法、賣藥製劑法、化粧品製造法、和洋酒類釀造法、煉乳製造法、化學的染色法、電氣鍍金法、硝子鏡製法、廢物利用法、飲食物防腐及貯藏法、製罐及罐詰法、ペンキ及ワニス類製造法、油類精製法、西洋洗濯法、石鹼製造法、和洋烟火製造法、インキ類製造法、接合劑製造法、木醋製造法、人造バタ製造法、化學彫刻法、製氷及清涼劑製造法、魚油精製法、レサリ製造法、香料製造法、食鹽精製法、樟腦製造法、ゴム印製法、外數種皆文明的好職業加ふるに每號内外發明彙報、職業叢談等一讀千金の價値あり至十四冊紙數千八百頁餘一會費一ヶ分前金四十錢、全部十四冊分前金二圓五十錢(郵券代用一割増但二錢切手以下) 毎月逐次送付又は希望により一時に送付す

醫學士 丸山秀雄 雄 閣
日本藥學協會主幹 嶋田脩治 著

(第二十版)

通俗衛生顧問

紙數二百數十頁
正價金九十五錢郵稅六錢
上製金一圓卅錢郵稅十錢
製本出來着金次第直に送
冊可仕

本書は諸病の原因及症狀を説き以て病の起らざる前に防ぎ或は疾病の發すべき起因を勦滅し或は既に發したる病を治療する方法を其病に依て一々説明を加へ且つ其藥品調劑の方法まで注意し日本藥局方の普通藥を以て處方を記す等丁寧親切に記述せしものなれば特に藥業者に於ては資料として缺くべからざる良書なり

略大次目

食傷、食滯、胃弱、溜飲、癩のさしこみ、腸加答兒、霍亂、腹痛、便秘、脾疝、疝氣、眞田
蟲、同蟲、黃疸、腹膜炎、脹滿、腰痛、腎臟炎、膀胱加答兒、遺尿、腎虛、癩病、疔瘡、梅
毒、咽喉加答兒、扁桃腺炎、感冒、鼻血、喉頭加答兒、馬脾風、氣管枝加答兒、喘息、咯
血、肺炎、肺癆、肋膜炎、心臟病、痛風、癱瘓、癩病、中風、癲癩、舞踏病、依ト昆怪
兒、脊髄勞、頭痛、偏頭痛、麻痺、風疹、水痘、痘瘡、ヘルペス、インフルエンザ、コレラ、
赤痢、脚氣、實扶的里、切創、刺創、止血法、銃創、丹毒、破傷風、狂犬病、鼠咬病、水
疔、根太、癰、瘰癧、疥癬、疥癬、田蟲、いんさん田蟲、なます、汗疹、夏月明、飛火、水
蟲、はたけにさび、癩病、そばかす、ほくろ、わさか、脱臼、眼瞼縁ものもらい、さ
かまつげ、はやり目、トラホーム、雀目、近視、耳漏、耳鳴、子宮内膜炎、子宮實質炎、
月經不順及び閉止、弊私的里等此外三十有餘病記載せり

醫學士 佐々木金次郎 閣
日本藥學協會主幹 鴨田脩治 著

(第三版)

通俗傳染病豫防法

附 消毒及傳染病諸規則

正價金五十錢 郵稅四錢
(日本藥學協會員に限り
特別代價三十錢の事)

本年は種痘免疫法の確保せらるべき天然痘すら關西及橫濱其他の地方に流行し遂に我が輦轂の下たる東京に侵入して勢ひ猖獗を極め人をして寒心に堪へざらしむ又傳染病中の最も猛烈なるペストの如き昨年虎刺司及大阪地方に流行し帝都の關門たる橫濱をも襲ふに至り其他虎刺司に赤痢に、將た窒扶斯の類は年々多少の流行あらざるはなし、今や戰勝に因て世界の一等國に伍し、自ら文明の民たるを以て任ずる吾輩同胞にして斯る野蠻病の跋扈を容すが如きは外人に對しても痛く恥づべきの沙汰にあらずや、是れ畢竟正當なる衛生的智識に乏しく、平生の豫防に缺くる所あるが爲のみ、本書は即ち此等一切の問題を解決すべき家庭の一大寶典たり

工學士 石浦德治 先生 纂著
日本藥學協會 主幹 鴨田脩治 先生 纂著

理化製造顧問

挿圖數十個 小包
洋裝全一冊
紙數五百頁
正價九拾錢

工藝雜誌記者は本書を評して實益の寶藏職業の顧問と云へり敢て過言にはあらざるなり。釘装の美紙質の良印刷の佳は云はすもかな、求むべからざるなり。釘装の美紙質の良印刷の佳は云はすもかな、しかも廉價を以て廣く世に販賣するもの如何に本書の實質が世に需要せんとするかを又以てその用意を見るべきなり

三版 新式獨逸語自修法

全洋裝美本
壹冊 正價參拾五錢
郵稅金四錢

本書は開發的順序を用ひて初步より發音法を教へて日用單語及び實用會話を速成せしめ正確に獨逸學の全般を知悉せしむる新案の假名附獨修書なれば藥學研究者には好伴侶なり

稀世の柘本發行に就き拜告

明孝宗弘治二年太子太保劉 瑯選文
總捕倭威海衛指揮檢事王 愷建石

賜天覽
倭寇之碑

一名環翠樓碑

重刻
柘木
幅二尺三寸餘
長四尺三寸餘
一枚實價送料共
前金壹圓
但し三千枚限の事
至急申込あれ

右原碑は日清戰役の際我軍威海衛にて發見し敵愾の餘り直ちに之を
破壊せるも幸に該碑柘一本だけ陸軍中央幼年學校の珍藏に係りしを
同校教官西村豐氏の覆刻せられたるものにして寸尺字體毫も原形と
違はず寔に和漢古今稀世の珍榻にして本邦史東洋史に於ける倭寇參
考唯一の材料たるは勿論一讀の下勇敢進取の氣象を勃發せるのみな
らず戰捷紀念として必ず一本を座右に備附すべきものなり
但碑柘由來書は柘本と共に配賦す(着金後直に送附す)

警視廳防疫事務官
兼細菌所長
山方喜太郎 閱
日本藥學協會主幹
嶋田脩 治著

最新肺病及其根治療法

實費 十錢

寶健堂眼科病院長
日本藥學協會主幹
嶋田脩 治著

最新トラホーム及其根治療法

實費 六錢

日本藥學協會主幹
陸軍騎兵曹長
嶋田脩 治 閱
與藤久 登 著

最新長身肥滿法

實費 六錢

警視廳警察醫
板橋驅梅院長
日本藥學協會主幹
嶋田脩 治 著

最新淋病及其根治療法

實費 六錢

守川南洋 閱

婦人科專攻醫學士
中村婦人科病院長
日本藥學協會主幹

中村 濟 閣
鳴田 脩 治 著

最新 婦人病 及其根治療法

實費 金 六 錢

脚氣病原研究所長
ドクトルメヂチ子
日本藥學協會主幹

宮田 守 治 閣
鳴田 脩 治 著

最新 脚氣 及其根治療法

實費 金 六 錢

警視廳警察醫
板橋驅敵院院長
日本藥學協會主幹

守川 南洋 閣
鳴田 脩 治 著

最新 梅毒 及其根治療法

實費 金 六 錢

右の七書は何れも皆な最近の學說に基き該病者の爲に特に通俗平易に記述せしものなれば之れに依て療養せば如何なる難病も容易に治癒すべき良書なり乞ふ一讀あれ

婦人畫報記者坂本易徳先生序 與謝野晶子女史題詠
牧野文子女史書翰 日本藥學協會主幹 鳴田脩治著

新刊 實用 新法 美顔と美髮

美顔美髮の現代美人寫眞數枚入美本
正價 金 四 拾 錢
郵送料當方負擔す

美顔美髮是れ美人の彰表なり美人たらんとする人讀め、美人たる人讀め美人ならざる人最もよく讀むべし、美人ならざる人之を讀めば美人となる、美人たる人之を讀めば愈々其美を發揮するに至る本書は世界的文明的現代的として最も適切に最も穩健に眞正の美人となるべき要件を親切丁寧に指導したるものにして一々實地に應用し得べき新式化粧法なり時代に後れさらんとする人々は是非一本を備へざる可らず
(目次大要) 健康は美顔法の第一、顔色を美しくする平素の注意、化學力と美顔術、美顔十八ヶ條、美人となる條件、色を白くする法、顔を洗ふ法、毛髮を美しくする法、食物と毛髮、皺を防ぐ法、容色年齢、白毛豫防法、縮れ毛を直す法、毛生藥調劑法、日に焼けぬ法、鼻の口や耳に就て、齒牙の養生法、音聲を美しくする法、口の臭きを治する法、毛髮と鐵劑、髮油と香油、胃腸病と美顔、顔の色、食物、化粧用の水、石鹼と糠と洗粉、白粉の用ひ方、白粉の鑑別法、顔に似合ふ化粧の秘傳、臙脂さし方、眉の造方、にきび、そばかす、いぼ、ほくろ、赤ふちと多毛症、美の障害等外數十件

醫學士 高岡順治先生序
日本藥學協會主幹 鴨田脩治著

學生は必ず見よ??

通俗 近視眼矯正及豫防法

眼球解剖寫真圖入り
洋綴金文字入美本
正價金四十錢
直接申込郵送料本會
頁殊す

要旨

人生視官より大切なるものなし。今や文化の進歩と共に學生にして殆んど近視に、侵されざる者あらず。近視を恐るゝは愚なり恐れざるも亦愚なり其理審かに本書にあり。既に幾分にては其疾患あるものは瞬時も早く本書に依て之を矯正し。幸ひに其患ひなきものは一日も早く本書を讀みて未然に防ぐことを怠る勿れよ。一日の怠慢は延て一生の不幸となる事を忘るゝ勿れ。

世の近視眼者は勿論家庭の長者たり又は學校教育に従事せる人々は是非一讀の義務あり

日本藥學協會主幹 鴨田脩治閣
陸軍野砲兵曹長 與藤久登著

第八版 長身肥滿法

正價金貳拾五錢
本會へ直接注文に限り
遞送料免す

社會の生存競争場裡に頭角を現はして優勝者の位置を占めんと欲せば長身肥滿且つ健強ならざるべからず之が爲めに近年歐米各國には頻りに此の法此の術此藥行はる。最近の消息に據れば英國エヂンバラのギブスン氏は一青年を治療して半歳に身長七吋を増加せしめて賛評の聲甚だ高し。本書は我國に於ける唯一の指針にして其説明は新進の科學的に基き實驗に徴して立證せるもの盛んに矮小青年諸子の歡迎を受けつゝ好評噴々たり疑ふものは請ふ速かに實驗せよ!!

日本藥學協會主幹 鴨田脩治著

第三版

男女衛生秘密療法

全一冊 紙數二百八十餘頁
正價金六拾錢
(郵稅六錢)

醫藥新報評 題して秘密療法といふ、秘密の二字先以て人情の弱點を衝くを見る、所謂啼兒と病には勝てぬ、病に秘密は無いと云ふもの、肺病や癩病は申すも愚か、年頃になつて寢小便の癖があるさ知つたら誰も嫁に貰ふものも婿に取るものも有るまい、是に於てか大に秘密病ありと謂はればならぬ、本書は獨り病氣の秘密ばかりでなく、何令ば婦人の月經時の養生やら閨房の内幕の如き、人の前に公々然と話も出来にくい筋の衛生法まで悉く網羅拾輯して漏らす所なく、親切丁寧に種々の注意、攝生乃至治療法、藥のこしらへ方まで手を取て教へ、殊に其の書振りに滑稽諧謔かいぎやくまじを交へて而も能く真理たるを失はず、讀む人をして厭あはさざらしむるの心盡しは、無味乾燥なる此種の著作に取りて最も嬉しく又藥物療法は何れも新式を撰んであれば、一方には製藥業者の參考として有益なるもと思ふ吾人は毎度ながら著者の氣轉、否其忠實を嘉するのである

目次大略

頭髮を美しくする療法、白毛豫防及白毛染藥製法、ちりれ毛の療法、毛生藥調劑法、皮膚を美しくする療法、皴を防ぐ療法、いぼ、にきび、そばかすの療法、色を白くする療法、ひつ、なまづ、わさびの療法、ほくろの療法、陰毛發生法及陰風の驅除法、腔の臭きを治する法、月經時の養生法、子宮病の療法、手淫の害毒と其療法、過淫の害毒と其療法、衛生秘密問答、腔加答兒と陰門瘰癧症の療法、妊娠及避妊法の話、不妊娘の療法、陰莖の強直症及包莖の療法、不感症及淫慾缺乏症の療法、淫慾を制止する法、遺精、夢精、早漏(腎虛)の療法、微毒淋病の療法、疳瘡と横根の療法、あか鼻の療法、鼻を隆くする法、肥える法、及瘦せる法、長身法、寢小便の療法、癩癩の療法、肺病の療法、癩病の療法等外皆最新療法數十件本書は衛生的新知識を養成せんとする者及家庭に在て秘密病の爲に苦辛しつゝある人、其他進歩的賣藥化粧品を製造販賣せんとする人々の良師友なり

米國醫學博士 曾根操女史序
小舟女史 鴨田坦子 著

新刊 現代女子の職業と活要

洋綴總クロース
美本二百ページ餘
正價金五十錢
本會員に限送料免す

現代女子は賢母良妻たるべきか將た獨立自營すべきか、本書は小學卒業後如何なる方面に將來の方針を採らんか、自己希望の職業に對する方法準備は果して如何に爲すべきか、**獨立自營**の女子の**職業**は如何にして獲らるべきものなりや、其方法、収入は果して如何之等現代女子の面前に横はる緊急なる**大問題**に關して、之が**詳細明確**なる論評と其方法を指示し現代及び將來處世の方向撰擇上に於ける忠實なる**顧問**として現代の要求に應じて生れたるものなり乞ふ世の姉妹方は勿論女子を持つては父兄は是非一本を購ひ其の家庭の幸福を得られよ。

侍講文學博士二島中洲先生題字 陸軍大學講師西村豊先生著

赤穂義士家庭

菊判洋裝總クロース
表題大石氏眞蹟紋章
花押金銀打込美本
正價金壹圓 送料金八錢

賜天覽 賜台覽 大石内藏 助(第五版)

本書は忠勇芳烈二百年後の今日と雖も、尙ほ且つ世人が謳歌稱賛々々として措かざる、赤穂義士の頭領大石氏の家庭を解剖詳細叙して、我が國武士道の由來を明かにし、抑て普く青年の讀み供に精神修養の資料を以て、夙に是等義士の事蹟に對して、著者西村先生は、豐富の學殖と特殊の興味を以て、幾んど一日の如く、其の對非の苦心を勞力せらるゝを以て、蒐集せる材料の如きも今や積んで山の如し、既に斯くの間の材料を有せらるゝに拘らず、同此書を編するに當り、上は内閣文庫の藏書、其の諸家の古書、及帝國大學史料編纂所の藏に係る、義士關係史料等より、下は民間の遺石、未だ散在せる種小説の類は固より、義士に關するものは、斷簡零墨片瓦、馴さ前人未だの事、實多き所なく、眞面目躍如たり、請ふ一讀あれ。

文學博士二島毅先生題詩 陸軍教授西村豊先生講述

賜台覽

赤穂義士切腹實話

洋綴クロース金字入美本
寫眞版 數十個入
正價 金五十四錢
送料 金四錢

赤穂義士の切腹は我が士道の精華を發揮し、千古の綱常を扶植して遺憾なし。乃木將軍の殉死は、忠誠義烈古今を照して神人を感哭して餘蘊なし。將軍平生赤穂義士を崇拜し、且つその切腹遺跡の名域に生る、その身を殺して義を取り、芳名を千古に垂る、赤穂義士と宿縁最も深しと謂ふべし。

古今赤穂義士を談する著書は汗牛充棟も音ならずと雖も、その切腹談に至りては陸軍教授西村豊先生の此書を以て嚆矢とす。

抑々切腹は海外人の我が日本古來特種の物産として讚美感歎する所にして、死生を超越し一身を貢獻せる志士仁人の心丹を發揮現實せるものなり。況んや亦穂義士切腹の如きは後世各藩とも、その儀式作法を一々標榜するに於てをや。是の故に赤穂義士乃木將軍の人物性格を知らんは欲せば宜しく此書を一讀すべき也

醫學士鈴木觀月序 日本藥學協會主幹 鴨田脩治著

新刊 惡癖矯正法

總クロース金字入美本箱入
紙數二百五十五拾餘
正價 金五拾六錢
送料 金六錢
本會員に限り送料免す

世には惡癖ある爲めに向上發展を妨げられて一生を不遇に終るもの多かるべし。然らば惡癖は一癖半癖たりとも改めればならぬ。本書は是非共閑却すべからざる惡癖の有りさあらゆるものを捉へ來てこれを原理に照して丁寧切實に之れが矯正法を講明したるものなり現に惡癖に苦しむ人は勿論小兒及び他人の癖を矯正すべき必要ある人々は本書に就て研究せられたいのである。左に本書の内容大略を示す

- ▲癖とは何か ▲癖の字義 ▲癖と習慣 ▲癖の意義 ▲癖は一種の活動 ▲癖は無意の活動 ▲強迫觀念 ▲其例 ▲いつも定まつて起る ▲其説明 ▲反射運動 ▲本能 ▲癖は個人に特有 ▲正格的と實格的 ▲心の組立て ▲要素の比較 ▲癖の心理 ▲其實例 ▲癖の起源 ▲他人を真似る ▲習慣的の癖 ▲暗示に基いた癖 ▲傳染する癖 ▲他人の言語が暗示 ▲先天的の癖 ▲生れつきの意義 ▲癖の潜伏 ▲癖の分類 ▲自己に不便の癖 ▲直接苦痛の癖 ▲衛生を害する癖 ▲他を害する癖 ▲道德に反する癖 ▲不體裁の癖 ▲所屬の分らぬ癖 ▲

癖は矯正し得るか▲矯癖の原理▲覺醒的矯癖法▲他人に依る矯癖▲小兒の矯癖▲大人の矯癖▲奏効困難の理由▲催眠的矯癖法▲術者の權威▲催眠的矯癖は簡單▲飲酒癖▲喫煙癖▲藥を嫌ふ癖▲或る食物を嫌ふ癖▲夜食及間食の癖▲菓子な嗜む癖▲寢小便の癖▲寢ぼける癖▲うなされる癖▲睡遊の癖▲寢言の癖▲不眠の癖▲鼻をかく癖▲相がわるい。口を開けてゐる。齒ざしり。坐睡。朝寢坊等の癖▲手淫の癖▲陰萎の癖▲交接無感の癖▲色情顛換及變態の癖▲妻及び夫を屢々取り換る癖▲姦通の癖▲盗む癖▲爪を噛む癖▲鼻の孔をいじる癖▲額で人を見る癖▲左手利きゝの癖▲にぎり箸に握り筆の癖▲動物を虐待する癖▲陰部をいぢる癖▲臭を舐く癖▲金錢に關する癖▲嘘をつく癖▲しゃべる癖▲吃る癖▲他人の悪口をいふ癖▲よく泣く癖▲餘計な返事をする癖▲芝居を観る癖▲夜遊をする癖▲酒色に耽る癖▲賭博の癖▲顔の赤くなる癖▲手足の顔える癖▲鼻汁を垂す癖▲鼻を鳴す癖▲口を曲る癖▲左利きゝの癖▲膝頭をゆする癖▲眼をパチ／＼させる癖▲覺えの悪い癖▲忘れる癖▲頭のぼんやりする癖▲誤認する癖▲注意散亂の癖▲判斷に迷ふ癖▲以上諸癖の矯正法▲蛇其他の蟲類を怖れる癖▲雷。地震等を怖れる癖▲臆病小膽の癖▲暗夜を恐るゝ癖▲物に驚く癖▲便秘の癖▲放屁の癖▲船暈の癖▲月經に關する癖▲癩及血の道の癖▲頭痛のする癖▲咳嗽ばらいたる癖▲怒る癖▲嫉妬の癖▲自慢の癖▲疑い深い癖▲威張たがる癖▲剛情の癖▲狼狽する癖▲失望し易き癖▲或る學課を嫌ふ癖等外數十件

醫學士 佐々木 金次郎序
日本藥學協會主幹 鴨田脩治著

新刊
通俗神經衰弱豫防療法

洋綴美本
正價金三十五錢
送料四錢

學生にして神經衰弱症に犯されざるもの少し是れ學科過重の結果なり、病勢漸く進まば有爲の前途を誤る、怖れざる可けんや近時社會の狀態益々復雜を加へ、生存競争愈々劇しく生活難、處生難の嘆聲は到る處に呼號戸響し神經衰弱病者の蔓延流行驚くに堪へたり、警めざるべけんや。本書は即ち時代の要求に應じて、専ら自衛的療法を教へん爲めに現はる、深切懇到親しく仁醫の治を受くるに異ならず同病の襲撃を豫防し、及び自療の確効を收めんと欲するものは來て本書に訴へよ!

獨逸醫學博士ヤコブソン氏處方
内外専門諸大醫實驗證明

▲▲一日の怠慢延ひて
▲▲一生の不幸となる

最新
發見

眼
トラホーム
特效

一オンス入價五 十 錢
二オンス入價九 十 錢
四オンス入價一圓七十錢

本會は數年前よりトラホーム治療薬に就き種々研究の結果遂に彼の獨逸國眼科専門大家醫學博士ヤコブソン氏の本病に對する療法に其き一の新薬を發見し之を有名なる我が眼科専門家に頼つて實地研究を請ひし處近來に至り長成績の報告に接するに至りたり殊に眼科専門寶健堂病院長の如きは非常の熱心を以て實驗の勞を取られたるは本會の深く同氏に謝する處なり即ち同氏の扱に依る一ケ年の患者二千六百八十三人中一千九百六十三人のトラホーム患者に對し本劑を試みられし處在來の藥品よりも頗る有効且つ經過迅速にして加ふるに本劑を使用せし患者には彼のパンヌス潰瘍又はさかまつ毛等の續發症等尠く實にトラホームに對する特效薬なりと稱賛せられ特に同氏より特效の二字を付せらるゝの榮を得るに至れり故に本劑の如何にトラホームに對する効力の確適なるかを知らるべし、世間トラホームに罹り困難せらる方は一日も早く本劑を使用して其苦難を脱せられよ

37
298

終

